

行基と鑑真

講師 左大臣光永

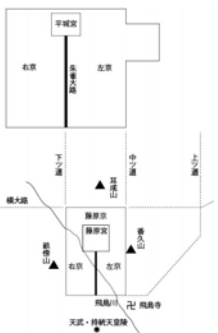
平城京遷都

和銅三年(七一〇)

三月十日

元明天皇

藤原不比等



器に随ひて誘導し、「ことごとく善に趣かしむ。」

時の人、号して行基菩薩と曰ふ。留止する処に皆道場を建つ。其の畿内に凡そ四十九処、諸道にもまた往々にして在り。

七〇〇年 道昭没

七〇五年 下山 二十八歳

聖武天皇

恭仁宮

政府の宥和政策

詔して曰く。比年(「の」)「ろ」、行基法師に随逐する優婆塞・優婆夷らの法の如く修行する者の、男の年六十一以上、女の年五十五以上は、「ことごとく入道を聴(ゆる)す。」

国分寺・国分尼寺

行基の経歴

天智天皇七年(六六八) 生まれ

河内国大鳥郡蜂田里

行基

都邑に周遊して衆生を教化(きょうけ)す。道俗、化(おも)ぐけ(を慕ひて追従(ついで)する者、動(うご)や(も)すれば千を以て数ふ。所以(ゆゑ)の処、和尚(わじょう)来(き)るを聞けば、巷(ちやう)に居(ゐ)る人なく、争(あ)い来(き)たりて礼拝(らいはい)す。

伝道をやめなかった。

政府の訳にも立った

時代の変化

時代の変化

藤原不比等

長屋王

藤原四兄弟

橘諸兄

紫香楽宮

行基の社会事業

布施屋、道場
行基四十九院

六七二年 壬申の乱

五歳

六八二年 出家

十五歳

元興寺

道昭

盧遮那仏造営の詔

天平十五年(七四三)
十月十六日

紫香樂宮にて

行基七十六歳

菩薩の大願を発して盧遮那
仏の金堂像一軀(いづく)を
造り奉る。国銅を盡(つく)
して象を熔(と)かし、大山
を削りて以て堂を構へ、広
く法界に及ぼして朕の知識
と為し、遂に同じく利益(り
やく)を蒙りて共に菩提を
致さしめむ。

行基大僧正

天平十七年(七四五)
正月二十一日

行基七十八歳

大仏造営
金鐘寺↓東大寺
天平十七年(七五五)
八月二十三日
聖武天皇、袖に土
行基、摂津に五道場

大仏開眼供養会

天平勝宝四年(七五二)

聖武上皇
光明皇太后
孝謙天皇
菩提僊那

授戒制度の必要性

具足戒

「三師七証」

戒壇

螺髪

夫(そ)れ天下の富を有(た
も)つ者は朕なり。天下の勢
(せい)を有つ者も朕なり。
此(こ)の富勢(ふせい)を以
て、此の尊像を造る。事や
成り易くして、心や至り難
し。

二度の焼失

治承四年(一一八〇)
平重衡

永暦十年(一五八七)
三好・松永

栄叡・普照 唐へ

天平五年(七三三)
四月三日
多治比広成



行基 入寂

天平二十一年(七四九)
二月二日

菅原寺 享年八十二

生駒山に埋葬

奈良県生駒市
竹林寺

鑑真

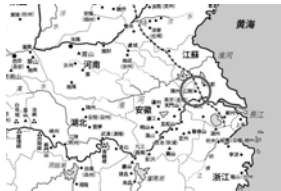
七三三年 八月
蘇州着

七三四年 四月
洛陽着

玄宗皇帝

吉備真備
阿倍仲麻呂
僧 玄昉

鑑真
六八八年
揚州江陽県 生まれ



山川は域を異にすれども、
風月は天を同じくす。
諸(これ)を仏子(ぶつし)に寄せ、
共に来縁を結ばん。

栄叡の死と鑑真の失明
七四九年
栄叡、端州(広東省西部)
龍興寺に没す
鑑真、失明?
祥彦、没す

七三三年 八月
蘇州着
七三四年 四月
洛陽着
玄宗皇帝

十四歳 大雲寺
十八歳 菩薩戒
二十一 具足戒 長安
二十六 揚州へ

祥彦
二十一名
鑑真 五十五歳

ふたたび遣唐使
天平勝宝四年(七五二)
大使 藤原清河
副使
吉備真備
大伴古麻呂
玄宗「道教の道士も」

遣唐使船団の帰国
七三四年 十月
遣唐大使以下、帰国
道璿(どうせん)
七三六年 日本着

四百三十回の講義
四万人を授戒
「大和上、独り秀でて
倫(ともがら)なし」

和上曰く、是(こ)は法事の
ためなり。何ぞ身命を惜し
まん。諸人去(ゆ)かずん
ば、われ即ち去かんのみ。
祥彦曰く、和上若(も)し去
かば、彦(げん)も亦、随ひ
て去かん。

七五三年十月
揚州 延光寺
藤原清河
吉備真備
大伴古麻呂
阿倍仲麻呂

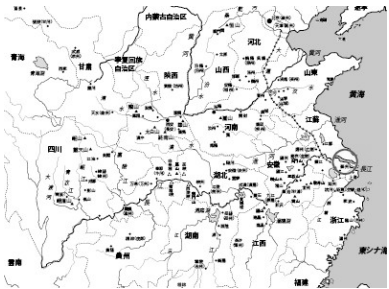
滞在九年

鑑真を訪ねる
七四二年 十月
揚州大明寺

五度の渡航計画
七四二年〜七四九年



出国
七五三年 十月十九日
竜興寺
十月二十三日
蘇州 黄泗浦



鑑真、薩摩着

七五三年 十二月二〇日
薩摩 秋麦屋浦

鑑真
思託
普照

大徳、遠く滄波を拂り、此の国に来至(きた)る。朕、先に東大寺を造り、十余年を経たり。大仏殿の西に於いて、戒壇を立てんと欲す。此の心有りてより、日夜忘れず。今、諸大徳(はるか)に来たり、朕が心と冥契(めいけい)す。

唐招提寺

天武天皇第五皇子
新田部親王 館跡

鑑真、大和へ

大宰府

七五四年 二月一日
難波津

崇道、法義らが歓迎

乃ち是れ朕の感有るか。今より已後(いご)、授戒と伝律は一に大徳に任す。

鑑真、入寂

天平宝字七年(七六三)
五月六日 入寂
享年 七十六

七五三年 十一月十日
大伴古麻呂
鑑真
十一月十三日
普照、合流
十一月十五日 延期

天の原

ふりさけみれば

春日なる

三笠の山に

出でし月かも

七五四年 二月三日
河内国府

大納言 藤原仲麻呂

二月四日、大和へ

登壇授戒

七五三年 四月

聖武上皇

光明皇太后

孝謙天皇

戒壇

具足戒

若葉して

おん目のしずく

ぬぐはばや

貞享五年(一六八八)四月
松尾芭蕉

鑑真、東大寺滞在

七五三年 二月五日

道璿

菩提僊那

三月

勅使 吉備真備

五月一日

戒壇を移す

次回 10月26日(土)
17:30-

「最後の将軍 足利義昭」

七五三年 十一月十六日
蘇州から出航
第一船 藤原清河
第二船 普照
第三船 鑑真
第四船 阿倍仲麻呂